

## 広域型生活支援コーディネーターの活動について

【これまでの活動報告】 平成 29 年 2 月～平成 29 年 6 月

### ①これからを考える交流会

【社協が地区福祉委員会に呼びかけて、地区福祉委員会をはじめとした地域の諸団体、福祉施設、地域包括支援センター、CSW などが参加し実施。生活支援コーディネーターが説明・報告】

・2 月 4 日豊津・江坂・南吹田ブロック(参加者 72 名)

・2 月 23 日南山田地区(参加者 30 名)

・3 月 18 日千里新田地区(参加者 38 名)

#### ○出された主な意見

・「集いの場」をもっと知ってもらおう。町会単位で「集いの場」ができればよい。

・安心安全の街づくりができるよう、各団体、各自治会が中心となって、活発に活動する地域でありたいと思う。

・自分自身を楽しむ！でお手伝いできればと思います。

・今から交流して、困りごとを言える関係づくりが必要と感じた。

・あいさつ、声かけができる雰囲気のある町をつくっていきたい。

・坂が多い地域なので、買い物で困っている人への移動販売や配達サービスの充実が必要。

・それぞれの活動状況や地域の情報をみんなで共有する場が必要。

・年齢や組織の違う人たちとの意見交換は良い。

・「高齢者」だけではなく地域の中で幼児や保護者も一緒になって、どう暮らしていくか考え、世代間交流のできる行事を企画してみたい。

### ②2 月 27 日「集いの場」交流会

高齢者の「集いの場」を運営する多様な担い手に参加を呼びかけ、「集いの場」の活動の充実や活動団体同士のネットワーク作りを目的に開催しました。

参加者:129 名(内訳:集いの場運営者等 109 名、地域包括支援センター11 名、CSW9 名)

#### 【グループワークにおける意見】

##### (1)工夫している点

###### ○「幅広い参加者を募るための工夫点」

→いきいきサロンに男性の参加が多い。老人会の活動が元々盛んで、いきいきサロン参加者に老人会の声かけをしたり、老人会の参加者にいきいきサロンの声かけをしたりしていることが大きな要因かもしれない。

###### ○「集いの場に見守りなどの活動を加えた工夫点」

→ひとり暮らし高齢者が多いので、会で顔を合わせることで安否確認を兼ねている。

###### ○「担い手確保のための工夫点」

→各団体から福祉委員会に出てきてもらっているの、若い担い手が比較的確保できている。

→PTA に声かけをして、母親 3 名ほどにスタッフになっていただいた。日頃から繋がりを作っておくことが大切。顔の見える関係ができていれば、頼みやすい「やってほしい」ではなく、「一緒にやろう」という言葉で誘っている。

○周知のための工夫

→高齢クラブの広報紙に載せると反響が大きい。(参加者が増える。)

(2) 課題や問題点

○担い手不足(特に若い世代)

→若い担い手が来ない。ボランティアの人手不足。スタッフの高齢化。福祉委員のなり手減少。

○実施場所(狭い、確保が難しい)

→たくさんの人に来てほしいけれど、会場は40人ほどしか入らないため、来てほしいけれど来すぎてしまうと入れない。

→公民館がなかなかとれない。

→開催場所が遠い、車いすであるなどのため会場まで来られない人がいる。

アンケートでは、「サロンの開催回数を増やしたいが、場所の確保が難しい。」「今後も他の活動報告を聞いて参考にしたい。」などの感想が聞かれました。

③その他

- 3月27日大阪府高齢者大学同窓会吹田研修会での講師
- 3月30日寿楽荘「Café きつね坂」講座での講師
- 4月26日吹二地区「喫茶ロン」訪問
- 5月1日吹田市社会福祉協議会ホームページ新着情報「集いの場」リストの情報公開
- 5月1日佐竹台地区「ふれあいリビング」訪問
- 5月28日千二地区「ホッとオレンジサロン」

④地域課題への取り組み

- 吹三地区「入浴ニーズ」作業部会
- 西山田地区「買い物ニーズ」検討